

講義名	中国語A		
科目区分	グローバル基礎		
担当教員	森 宏子		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科/2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・プライダグコース/2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2018年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	1年生	単位数	1
		備考	

<b>主題と概要</b>
この授業では中国語の基礎を学びます。中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんと読めることです。私たち日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。ワークシートでは基本的に活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

<b>到達目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につける</li> <li>基本的な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができる</li> <li>基本的な文の意味を理解でき、書くことができる</li> </ol>

<b>提出課題</b>
必要に応じて課題提出を求めることがあります。

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>
授業中で解説する

<b>評価の基準</b>
次の3点を総合的に評価します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>授業態度 30%</li> <li>小テストや中間テスト、課題提出など 40%</li> <li>期末テスト 30%</li> </ol>

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>
外国語の授業は実践的なものなので活発な取り組みを期待します。授業中の積極的な態度は大いに評価します。最近は教科書を持って来ない人や、始終スマホを操作している人が見受けられますが、そのような消極的な授業態度は大きなマイナスポイントとなります。

<b>教科書</b>
はじめよう楽々中国語。 小林和代・韓軍 白水社 2200

<b>プリント資料及び参考文献</b>
必要に応じて配布します。

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>第1課 単母音・声調・子音・発声</li> <li>第2課 複合母音・鼻母音・発音のまとめ</li> <li>第3課 何日何日・何時</li> <li>第4課 お名前は・どちらの大学</li> <li>第5課 だれ？なに？・これは～です</li> <li>第6課 いる・ある</li> <li>第3課～第6課のまとめ</li> <li>中間試験</li> <li>第7課 どこにいる・AそれともB</li> <li>第8課 どれくらいかかる・～するのが好きです</li> <li>第9課 いくら・Aよりも～です</li> <li>第10課 ～したい・どこで</li> <li>第11課 ～できる・～していい</li> <li>第12課 ～している・～したことがある</li> <li>第7課～第12課のまとめ</li> </ol> <p>※授業の進度はクラスの状況に合わせて適宜調整します</p>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>
ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
（授業前）新しい課に入る時は、事前に単語帳（ワークシート）を別途配布します。単語帳は自宅で作成させてください。また、次の授業で学ぶところにざっと目を通すことをお勧めします。それをするだけでも、授業の理解度が格段にアップします。（約1時間半～2時間）  （授業後）復習はしっかりと。語学は積み上げ方式です。しかも、みなさんにとって中国語は初めて学ぶことばで、学ぶことすべてが新しく、覚えることがたくさんあります。毎回授業で学んだことを自宅でもう一度振り返り、しっかり理解していくことが必要です。授業時間内にできなかったドリルは宿題とします。（約2時間～2時間半）

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>

<b>実務経験の有無及び活用</b>

<b>備考</b>